

令和5年3月28日

寒河江市長 佐藤洋樹様

寒河江市議会議長 伊藤正彦

市政に対する提言書の提出について

本年度、市立病院検討特別委員会において、同病院の将来を見据えた運営及び医療体制のあるべき姿について、調査研究を行いました。

今般、その結果報告を受け、市議会から市政に対する提言書として、別紙のとおり提出しますので、本提言書の内容を踏まえ、市政運営に取り組みますよう要望します。

記

提出書類 市政に対する提言書 1部

寒河江市立病院の今後の医療提供体制についての提言書

本市議会では、令和4年6月議会において「寒河江市立病院の今後の医療提供体制のありかたを協議すること」を目的に、市立病院検討特別委員会を立ち上げ、本市を取り巻く環境や今後の医療ニーズに適した医療提供体制のあるべき姿を模索し、また、寒河江・西村山のリーダーとして、マクロ的視点も踏まえ、これまで様々な角度から協議を重ねてきた。具体的には、現在進行中の先進地である「県立新庄病院」・「米沢市立病院」の視察研修を行った。また、西村山地域医療提供体制検討会での協議を受け、今後予想される人口構成と患者数の将来推計、本市立病院を始め3つの公立病院の患者数、医療従事者数、病床数、4つの公立病院の経営状況などを考慮するとともに、全国的に進められている三次・二次・一次医療機関の機能分担、医療資源の集中的投資など、限りある医療資源の有効活用を踏まえ、まずは、寒河江市立病院と県立河北病院の統合を進めるべきとの結論に至った。

具体的取り組みとなると、1市4町の医療従事者を始めとする関係機関、関係自治体、住民の理解・協力が不可欠であるが、各公立病院の施設の老築化、厳しい経営状況等を踏まえ、早急な対応を求めるものである。従って、県をリーダーに寒河江西村山地域はもとより、村山地域全体を取り巻く周辺の医療提供体制も充分踏まえ、今後求められる持続可能な医療ニーズへの一日も早い対応が急務であることから、「寒河江市立病院と県立河北病院の統合」を早急に進める必要がある。

以上、本市議会における提言とする。